

男の人と女の人の声がちがうのはどうして

声は声帯で出している

声は、のどのおくにある声帯という膜を、息でふるわせて出しています。この声帯で生まれた音が、のどから口や鼻を通して外に出るまでに変化し、声になって出てくるのです。声帯は2枚の膜のようなもので、内部には筋肉も入っていて、空気が通るときには開き、声を出すときにはぴったりと閉じて、その細いすき間から空気が出るために、音が出るのです。

男の子も女の子も、子どもころには声帯が同じように小さく、声もあまり変わりません。しかし、男の子が思春期といって、体が大人の体に変化する時期になると、声変わりといって、声あまり出なくなる時期があり、声が低くなるのです。

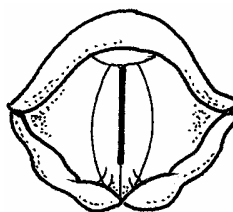
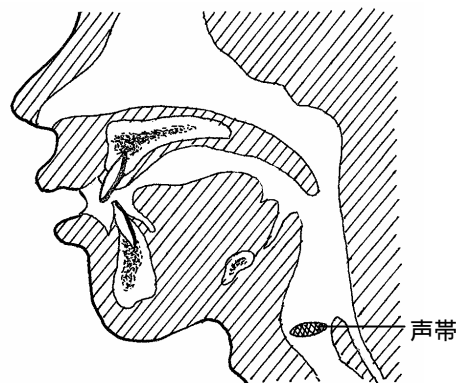
男の人と女の人の声がちがうのは

男の子が思春期になり、男性ホルモンがつくられて、大人の体になると、のども発達して、のどのなん骨が前後に発達します。

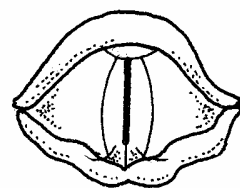
そのため声帯が長くなり、声帯がゆるんで、声も低くなります。

しかし、女の子の場合、大人の体になっても、声帯の長さは少ししか長くなりませんし、ゆるむこともありません。そのため、声もあまり変わらず、男の人と女の人の声には、ちがいが出てくるのです。

(監修・保志 宏)



男の人の声帯



女の人の声帯

